

## ホテルを使って 消防訓練

対馬市消防署と厳原第1分団から第5分団が、秋の火災予防運動期間（11月9日～15日）にあわせ、11月14日に、旧対馬交通ホテルを使って、消火と救出訓練を行いました。実際の建物を使つての訓練は、とても有意義なものだったよつで、テキパキと動く団員の姿が印象的でした。



## 火災多発期を前に 消防放水訓練

11月7日、対馬市消防団美津島地区消防団では、午前中に幹部団員が各分団の機械点検状況等を視察した後、午後

からグリーンピアつしまの多目的広場に集合し、礼式訓練と放水訓練を実施しました。

これは、冬の火災多発期を前に毎年実施しているもので、この日始めて放水するという新入団員もいて、幹部団員から厳しい指導が行われました。



## 安全・安心のために 旅客船事故対策訓練

11月15日、上対馬町比田勝港岸壁で、旅客船事故対策訓練が実施されました。

「フェリーあがた」から火災が発生したことを想定し、巡視艇による消火活動、救急隊による負傷者の搬出等訓練を行いました。

船上で発煙筒がたかれ、

「火災発生」とのアナウンスにより訓練開始。訓練に参加したのは、比田勝海上保安署、対馬市消防本部分上対馬出張所、九州郵船(株)、博多海陸運送(株)比田勝出張所で、真剣な表情で訓練に取り組んでいる姿がとても印象的でした。



## 対馬で初の 女性消防団員誕生



男性ばかりの消防団に入団を決めた女性は、美津島町に住む阿比留由美さん。

阿比留さんは厳原町久田の会社で事務員として働いていますが、同地区の厳原第6分団長より誘われたのがきっかけで入団を決意しました。

11月9日に消防団の制服を渡された彼女は、「少し恥ずかしいけど、身が引き締まります。これからは消防署にも足を運んで、一生懸命勉強します。」と、張りきっています。これからは本部付けで消防のキャンペーンや災害の後方支援の仕事を手伝うことになるそうです。

## 婦人防火 クラブ結成

11月4日、対馬市になって初めて、美津島町婦人防火クラブ（江嶋慶子会長・クラブ員数35名）が結成されました。

結成式で、江嶋会長が、「自分の家庭、地域から火災を出さない防火意識の徹底で、火災のない町になるよう活動します。」と宣言しました。

これで、対馬市少年婦人防火委員会（阿比留仁志会長）で組織する婦人防火クラブは、豆蔵地区と美津島町の2クラブになり、同委員会では、今後とも各町にクラブの結成を働きかけ、防火意識の向上に努め、火災のない対馬市をめざしていきます。

## 火災予防 パレード

「秋の火災予防運動」初日の11月9日、豊玉町で、仁位保育所園児を先頭に、対馬交通豊玉営業所から豊玉支所までパレードが実施され、町ゆく人々に火災予防を呼びかけました。



仁位保育所園児の防火パレード

## 航路標識(灯台) 業務協力者に感謝状



(中央)根津組合長、(左)山根さん

灯台記念日にあわせ、11月4日、灯台の巡回点検時に、見回り用船の提供など、航路標識業務に協力された豊玉町漁業協同組合(根津廣次組合長)に海上保安庁長官から、峰町志多賀の山根久美男さんに、対馬海上保安部長から感謝状が贈られました。

## きれいな海を いつまでも

11月4日、佐須奈保育所(園児32名)で比田勝海上保安署による環境教室が実施さ

れました。クイズ形式の寸劇と紙芝居が行われ、ごみを捨てずにきれいな海を大切にしようと呼びかけました。

寸劇では、きれいな海を守る「うみまる」と、海を汚す「ゴミまる」が登場。「うみまる」の正義の必殺パンチが「ゴミまる」をやっつけると園児たちは大喜びでした。



## 三根川 クイーンズアップ作戦

10月22日、峰町の西小学校(古藤省吾校長・児童数65名)の3、6年生42名が、清流「三根川」の清掃活動を行い

ました。

これは、子どもたちに、三根川の現状を見て、身近な環境問題に目を向けさせ、郷土の大切な自然を守り、愛する心を育むため行われたもので、三根川の中里から学校前までの約2kmを、学年別に清掃作業を行い、2台トラック1台と軽トラック1台分のゴミを回収しました。



## みつしま ヘルシーウォーク

11月14日、高齢者コミュニティセンターから雑知ダムまでの往復5kmのコースを歩く、みつしまヘルシーウォークが開催されました。

今年は、4歳から83歳までの約200名が参加し、色づき始めた山の景色を楽しみながら、それぞれのペースでさわやかな汗を流しました。

ウォーキングは、肥満予防、体力増強に適した運動です。日頃運動不足を感じているみなさん、まずはウォーキングから始めてみてはいかがでしょうか。



## ご存知ですか? ちよっといひ話

十八銀行対馬支店駐車場そばの道路が通りやすくなったことをご存知ですか?

それは、三叉路の角に住む大山森生さんが、ブロック塀を角のところで90cm、川端に続く道路側を40cm、ご自分の敷地側に移動したからなのです。

奥様にお話を伺うと「今まで狭い三叉路で、車が塀や標識と接触する事故が多かったです。自分も車を運転していて、通りにくいと思っていたので、古い家を壊すときに塀も移動したんですよ。」と話してくださいました。

